

○現時点での診断の限界について：

かかりつけ医での PCR 検査実施は出来ません(診断の正確性を期すため、限られた施設で完全防備下での実施のみ)。しかし、万が一身体にウイルスが入ったとしても、体力・消化能力のバランスが良ければ発症には至りません。要は初期対応をよく理解し、動じず(パニックにならず)・日本人らしく冷静な行動をとることです。

○発症させないためには：

ウイルスを貰わないための大原則(3 密:密室/密閉/密接の回避)を守ることは当然ですが(手洗いやアルコール消毒の実施・マスク装着などもある程度の予防効果あり)、夜間や週末、帰国直後やご家族の看病中などで疲労が蓄積している場合に、無理をせず身体とともにお腹(脾胃)も十分休ませることがウイルスの陽性化を防ぎ、新たな感染源からの拡散防止にもつながる可能性が考えられます。また、発熱時の水分補給も「脾胃負荷」を助長し、「発熱持続中の急激な病状悪化」の原因になります(少量ずつ・ゆっくりとした水分補給や氷の利用が求められます)。そして、風邪症状が続く場合には大事を取ってマスクの装着や自宅安静(隔離)を自主的に実施し、新たな感染源にならないよう努めることも日本人のマナーの一つです。

○初期症状について：

新型コロナウイルス感染症の初期症状として、発熱のほか空咳や頭痛・嗅覚や味覚の異常・食欲低下や下痢なども「脾胃負荷」が関係していると判断され(免疫力低下や局所のむくみ・消化不良症状に起因)、「十分お腹(脾胃)の安静にも努める」ことが問題の早期解決につながる可能性が考えられ、空咳に対する吸入ステロイド吸入などのほか、「脾胃負荷」の早期解消を目指した初期治療(肺炎治療薬投与など)の有効性も期待されます。

○悪化・重症化の防止策：

呼吸不全の急激な悪化(肺のむくみ⇒間質性肺炎への進展)・全身の炎症反応(SIRS)や脱水の進行などにも「脾胃負荷」が大きく関わっている可能性があります。若い方でも生まれつき消化能力の弱い方(事前に把握しておくべきです)は油断禁物です。呼吸不全・免疫力低下対策のほか、全身浮腫や消化不良に伴う脱水改善対策(腎不全や虚血性心疾患防止策)を講じる必要があります。

○感染者の回復期の対応：

回復力には個人差があります。普通の生活に戻っても暫くは油断せず、身体とともにお腹の安静にも努め(定期的な体温測定⇒高めれば、再び身体・お腹を休ませる)、「脾胃負荷」が明らかな場合には経口の肺炎治療薬投与(ジェネリック薬で十分)が遷延化防止に効果を発揮する筈です。

○今後について：

将来も起こるであろう新たな“侵入者”に対し、日本人としての対応策を皆で考えておくべきです。

結論

皆が日本人らしさをよく理解し冷静に行動すれば、早晩新型コロナウイルス感染症は克服され、世界の国々から「新たな日本の価値」を得る良いチャンスとなる筈です。